

金ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2021/10/18号

一般社団法人日本貴金属マーケット協会 池水雄一



【ゴールドマーケットの現状】

ゴールド1800ドルトライも超えられず

SPDR Gold Shares円建価格



ゴールドとドルインデックス



上昇が止まらないエネルギー価格とそのたコモディティ価格、特に銅価格がふたたび1万ドルを超えたこともあり、インフレとスタグフレーションへの市場の意識がむき出したことによりゴールドはじわじわと上昇。CPIが市場予想の5.3%よりも高い5.4%と発表され、発表の瞬間にはインフレ=長期金利上昇という想像から1775ドルから1760ドルまで売られましたが、その後すぐに上昇、インフレが強材料になり始めたようです。ゴールドは心理的にも重要なレジスタンスである1800ドルまでほぼ一か月ぶりに上昇、一瞬1800ドルを超えたのですが、さすがに1800ドルには相当の売り意欲があるようで、完全に1800ドルをクリアすることはできず、これがクリアできなかったことで逆に失望売りが出て結局はまた1770ドルを割り込んで一週間が終わりました。結果的にドル建てゴールドは週初と週末があまり変わらないレベルとなりました。しかし為替が114円台と3年ぶりの円安レベルとなり、ドル建てゴールドは週初とあまり変わらないレベルで終わったのにも関わらず円建てゴールドは150円以上の上げとなり、久しぶりに6500円レベルとなりました。原油は82ドル超えで上昇傾向は変わらず。中国のPPIは10.7%と8月の9.5%よりもさらに高くなりインフレが進行しているのは米国だけではなく、世界的な傾向だとIMFも認めています。この状況下ではインフレは一時的とは言えないと思います。ゴールドにとっては短期的には長期金利の上昇が相場の頭を押さえるかもしれませんが、長期的には強気材料です。時間がかかっても1800ドルをふたたびトライすると思います。

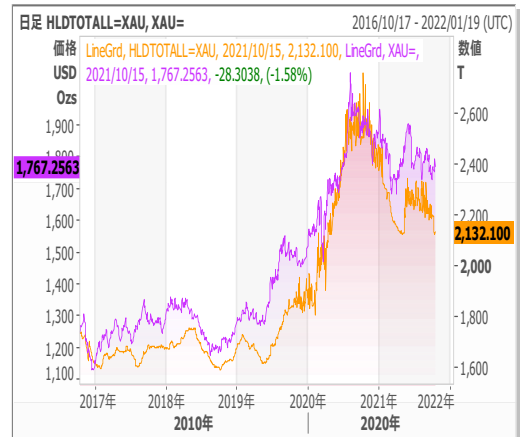
本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

金ETF証拠金取引|WEEKLY REPORT

【マーケット・トピック】

ゴールドの需要と供給 (2)

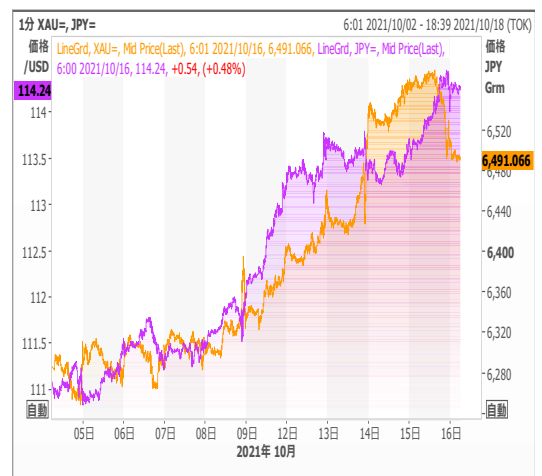
過去14年間世界一のゴールド生産国は中国でした。しかし今年2021年は前半期は中国153トン、オーストラリア157トンとわずかながらオーストラリアが中国を上回り、このペースで行くと2021年はオーストラリアが世界一のゴールド生産国になりそうです。ここ数年にわたっての同国の活発なゴールド鉱山開発事業の結果であり、2008-2014年の間の鉱山開発費でゴールドの占めた割合は20%だったのが、今は50%まで上がっており、オーストラリア全体でゴールド鉱山の開発がブームになっています。ゴールドというと南アフリカというイメージが強いのですが、今や南アフリカの生産は年間99トンと100トンを割り込み、世界11位とその他大勢のイメージが強くなっています。確かに1960年代70年代は年間1000トンを超えて全世界のゴールド生産の7-8割を占めた時代が続きました。現在の生産高はその当時の10分の1を下回る量であり、南アも現在その採掘コストに見合う鉱脈を掘り尽くしつつあると思われます。南アフリカがゴールド鉱山生産でガリバー的存在であった60~50年前と比べると現在は、世界各国でゴールド鉱脈の探索が進み、あまり突出した生産国はなく、100トンを超える国々が10カ国以上あります。これが現在のゴールド生産の大きな特徴です。昔は南アフリカで何か問題があればゴールドの価格は大きく動きましたが、現在は南アフリカの動向はほとんどゴールド相場に影響を与えません。(逆にプラチナは世界生産の8割が南アフリカとその周辺で行われているため、南アフリカの動向は相場に大きな影響力があります。)これは逆に、リスクが分散されてゴールドの鉱山生産が非常に安定していることを意味します。2020年の鉱山生産は3478トンで2016年以来の低い数字になっていますが、Covid-19の影響での都市ロックダウンによる一時的な鉱山の閉鎖が行われたことが原因です。特にペルー、カナダそして南アフリカではその影響が大きく、前年からの生産量が大きく減少しています。2021年は大きく回復するとみられています。ほとんどの鉱山が通常生産に戻り、2020年の6%増加の3693トンと予測されています。



Gold ETF残高とゴールド価格



米長期金利とゴールド



円建てゴールドとドル円

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレマー）をお読み下さい。

【ディスクレーム（免責条項）】

本レポートは、本取引所が一般社団法人日本貴金属マーケット協会から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、一般社団法人日本貴金属マーケット協会に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、一般社団法人日本貴金属マーケット協会（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 一般社団法人日本貴金属マーケット協会（Japan Bullion Market Association）

【所在地】 〒103-0016 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

【URL】 <http://jbma.net>

【E-mail】 info@jbma.net

池水雄一（いけみず・ゆういち）プロフィール

1962年生まれ兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。2019年9月より日本貴金属マーケット協会（JBMA）代表理事に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリオン（貴金属）ディーラーでブルース（池水氏のディーラー名）の名を知らない人はいない。

最新情報は
ツイッターで

